



どうしてジェイソンは病院にいるの？

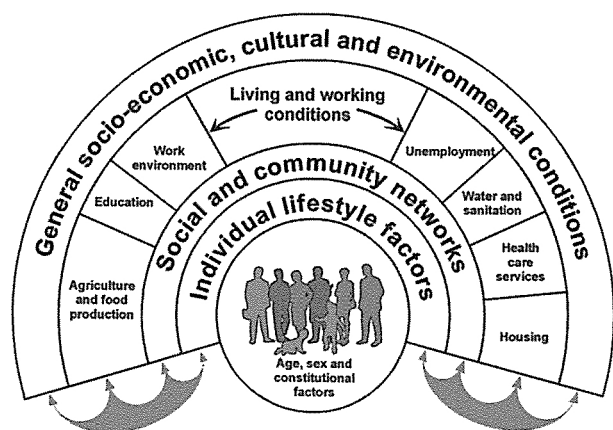
国立国際医療研究センター 国際医療協力局

連携協力部連携推進課 医師 佐野 正浩

Public Health Agency of Canada (カナダ公衆衛生機関) のウェブサイトに掲載されている寓話を1つご紹介したいと思います。—どうしてジェイソンは病院にいるの？ それは、彼の足にひどい感染症を起こしたからだよ。—どうしてジェイソンの足には悪い病気があるの？ それは彼が足を切ってしまうと、そこから感染を起こしたんだよ。—どうしてジェイソンは足を切ってしまったの？ それはね、彼がアパートの隣の廃品置き場で遊んでいたから、そこには尖ったギザギザの鉄クズがあったからなんだよ。—どうしてジェイソンは廃品置き場で遊んでいたの？ それはね、彼が荒れ果てたところに住んでいるからだよ。そこの子供達は色々な場所で遊ぶし、誰も監督していないんだ。—どうしてそういう所に住んでいたの？ それはね、彼の両親がもっと良い所に住む余裕がないからさ。—どうしてもっと良い所に住む余裕がないの？ それはね、彼のお父さんは仕事がなく、お母さんは病気だからね。—お父さんに仕事がないってどうして？ それはね、彼のお父さんは教育を受けていないんだ。それで仕事が見つからないんだ。—それはどうして？

個人ではコントロールできない健康リスクを規定する社会的要因の事を Social Determinants of Health (SDH) と呼びます。現在は医学・看護学教育コアカリキュラムにも導入されており、どこかで聞いた事がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私達の健康は生物・心理・社会的な要素が相互に関わりながら構築されています。1991年に Dahlgren 博士らが提唱した Rainbow Model (図)

もSDHの理解に役立つかもしれません。中心には Age (年齢)、Sex (性別) 等、生まれつき備わっている特徴があり、それを取り囲むようにして環境的・文化的・社会的な要因が個人の健康に影響を与えています。農業や食物、教育、職場環境、水や衛生設備、ヘルスケアサービス、住居等です。例えば、気候変動により降水量が減り農作物が育たなければ、人の栄養状態や成長過程に影響が出るでしょう。あるミネラルやビタミンが不足していれば勉強に影響が出る事も分かっています。また社会や周囲とのつながりが希薄であったり、自分の思い描いていた未来と現実ギャップを感じれば自分の存在価値に目を向ける人もいるかもしれません。WHO憲章では「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されています。そして個



図：Dahlgren G, Whitehead M. The Dahlgren-Whitehead model of health determinants: 30 years on and still chasing rainbows. Public Health. 2021 Oct; 199: 20-24. より引用

人の健康を規定する要因の半分以上は社会的な要因とも言われています。

2023年9月、私は中央アフリカのコンゴ民主共和国(DRC)にいました。車に乗っていると小学校低学年位の痩せた男の子がドア越しに顔を近づけ、苦しんだ表情で手を合わせながら何かをくださいと嘆願する場面に遭遇する事が少なくありません。私が初めてアフリカに行ったのは2005年のガーナ共和国でしたが、その時も同じ状況が多くありました。18年経っても同じ光景を目の当たりにし公衆衛生は改善されている所も沢山ありますが、全く変わっていない所も多くあると感じます。DRCでは家族に災いがあるとその原因が子供にあると見なされる事もあり、家を追い出されてストリートチルドレンとなる事も少なくありません。彼もその1人であったかもしれません。Rainbow modelを1箇所1箇所確認しなくても、彼を取り囲む環境や文化は壮絶な事が容易に想像できます。

さて、冒頭のジェイソン少年と似ているような状況は遠い外国だけに限った事ではなく、私達の通常の臨床業務でも頻繁に遭遇します。私の患者さんの1人でコントロール不良の糖尿病の患者さんがいました。連絡なしの未受診が何度もありました。処方した薬はもうなくなっているはずです。外来バック

ヤードでは、あの患者さん今日も来ていないみたいですよ、糖尿病の患者さんって病識ないですよねという声が時折聞こえてきそうです。私も、糖尿病患者さんでは、教育が大事と思っていたので、受診された際には、栄養指導や歯科/眼科検診の重要性、運動内容の見直し、合併症や必要なワクチン接種について説明を少しずつ行い、外来は休まずに来てくださいねと伝えていました。UpToDate®で推奨されているエビデンスに基づいた糖尿病診療をしていたと思います。しかし、後から分かったのですが、その患者さんは経済的に困窮しており、外来受診で仕事を休めば収入に影響してしまうので、薬を自分の判断で半分使用し、受診回数を減らしていました。毎月の受診よりも家族にご飯を食べさせる事が何より大事であったのです。いつも「先生ごめんごめん、受診忘れちゃって」と笑顔で謝っていたその背景には、とても大変な状況がある事に気付いていませんでした。私は糖尿病という病態を見ていたのであって、患者さんを診る事ができていなかったのだと思います。Rainbow ModelやSDHを思い出す事は、凝り固まってしまった私の思い込みを時々修正してくれているのかもしれませんが、自分自身の健康や人生を見つめ直す時にも役に立つかもしれません。